

移転による新駅舎の建設が計画されているJR苗穂駅

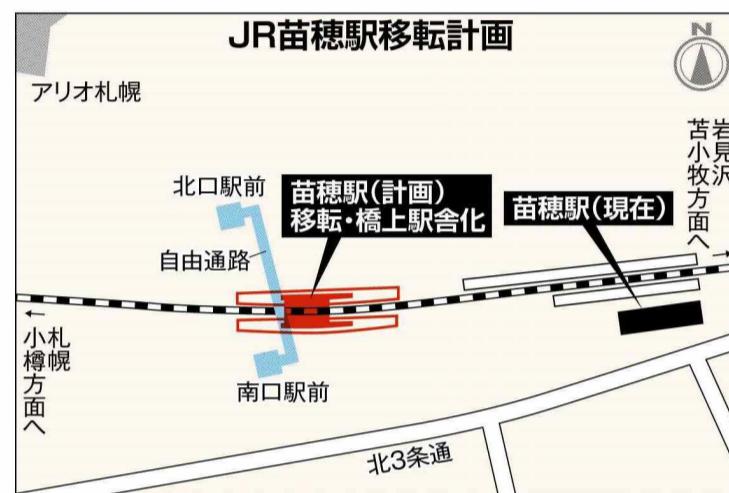


2018年度に予定されているJR苗穂駅（札幌市中央区）の移転計画で、JR北海道が新駅舎へのエスカレーター設置を断念したことに対し、地元住民が反発している。JRは「経営改善のための駅のスリム化」を掲げ、エスカレーターの代わりにエレベーターの大型化で対応。住民側は高齢化する地域のニーズに合わせた施設整備を求めていたが、JRは「今後整備する（苗穂以外の）駅舎も原則エスカレーターは設置しない」とし、計画を変えない方針だ。

（門馬羊次）

エスカレーターないなんて

新苗穂駅 JRが設置断念



JRは13年、新駅舎は線路をまたぐ橋上駅とし、駅舎とホームをつなぐエスカレーター4基とエレベーター2基を設置する計画を示していたが、今年10月下旬に計画変更を発表した。

説明なく計画変更

苗穂地区の住民組織「苗穂駅周辺まちづくり協議会」の八田力会長（78）は憤りを隠さない。「住民に何の説明もなく計画が変わった。エレベーターでは急いでいる人が待つ場合もある。地域では高齢者が増えており、利便性が大きく損なわれる」と強調する。

苗穂駅の再整備は地元の長年の悲願だ。現在の駅舎は築80年。2面あるホームと駅舎は陸橋で結ばれ、階段しかない。また、駅の北側にはJRの関連施設が広がるため、駅は南北しかなく、苗穂地区は駅を挟んで南北に分断されている。

移転計画は、市の「苗穂駅周辺地区まちづくり事業」の一環。駅を西へ約300mに移転し、札幌市が駅に併設する自由通路を整備、南北の往来を可能にする。

市もエスカレーターについて「再考願いたい」と訴えてきたが、JRの態度は変わらなかつた。苗穂駅周辺まちづくり協議会は「多

住民反発 「高齢化 利便損なわれる」

計画変更により、JRの負担は当初より2千万円減少の約7億円、国と市の負担は7千万円減の約45億円になる見通し。札幌圏の主要駅にはエスカレーターが設置されることが決まり、JR北海道は「利便性とバリアフリーに一定の配慮をした」と話す。

計画変更により、JRの負担は当初より2千万円減少の約7億円、国と市の負担は7千万円減の約45億円になる見通し。札幌圏の主要駅にはエスカレーターが設置されることが決まり、JR北海道は「利便性とバリアフリーに一定の配慮をした」と話す。

「選択と集中」強調

エスカレーター断念につ

いて、JR北海道広報部は

「事業の選択と集中を進

める中で設置しないことを

決めた」と説明。代わりに

エレベーターを当初の11人

乗りから15人乗りに変更

し、「利便性とバリアフリ

ーに一定の配慮をした」と

話す。

計画変更により、JRの負担は当初より2千万円減少の約7億円、国と市の負担は7千万円減の約45億円になる見通し。

札幌圏の主要駅にはエスカレーターが設置されることが決まり、JR北海道は「利便性とバリアフリーに一定の配慮をした」と話す。

エスカレーター設置を求めるこ

とを検討している。

北大大学院工学研究院の

岸邦宏准教授（交通計画

教授）は「エスカレーターが

施設が当たり前の社会で、

JRの方針はサービスレベルの低下だ」と指摘。

道教大札幌校の武田泉准

教授（交通政策論）は「鉄

道事業の工事は専門性が高

くコストがかさむ傾向にあ

る。経費をしつかり見直し、

利用者のニーズを取り入れ

ることも必要」と話してい